

九大三景

六本松 箱崎 伊部



▷7◁

の感謝の気持ちを表したい」と一念発起、研究室の後輩と保存会を作った。

保存会に集う仲間の思いはさまざま。文部省3年の梶田枝里さん(20)は、六本松から箱崎に来たばかりで「最初は街への愛着はなかった」が、取材に歩く中で「お店の人たちが、通っていた学生すべての思い出を

「昔の学生さんはみんな、大きなどんぶり何杯も食べて行きなされたよ」「へえー」

福岡市地下鉄箱崎九大前駅(福岡市東区)

六本松に先立ち、伊都キャンパスへの移転が始まった九大箱崎キャンパス。07年には工学部などが全面移転し、箱崎の街は人影がめっきり減った。

益田さんにとって「ふなごし」は単に「安くてうまい」だけの店ではなかった。研究に行き詰まり、泣きながら店に行った時、店の

大切にしていた。九大生への親心に触れることができた」。今は営者。それぞれの形で、九大とともにあった時代を大切にしているのが分かる。

街の記憶、サイトに保存

近く、小さな路地の奥に食堂「ふなごし」はある。10席に満たない狭いカウンターで、九州大学大学院で社会学を学ぶ益田仁さん(26)らが、メモを取りつつ店主の船越晴二さん(72)、寿子さん(68)夫婦の話に聴き入っていた。

益田さんら社会学研究に食卓「ふなごし」は室の学生約20人が07年に設立した「箱崎九大記憶保存会」は、九大生の思い出が詰まった箱崎の「記憶」を形に残そうと、ノートとデジタルカメラを手に取材に歩いては、ネット上に記録し続けている。

人たちに何度となく励まされたことを忘れな

大切にしていた。九大生への親心に触れることができた」。今は営者。それぞれの形で、九大とともにあった時代を大切にしているのが分かる。

卒業後に北九州市で就職、大学職員として箱崎に帰ってきた大矢敦子さん(25)は、離れたいた間に街が激変していたのを見て「街への衝撃を受け、保

田さんらは「箱崎育ち」の自負を胸に、こつもりだ。サイトのアドレスは

http://hakozaiki-kyudai.com/

【尾中香尚里】



大学周辺の飲食店で取材する九大生ら—矢頭智剛撮影